明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第九巻第六號

目次

◎夏と修養會(一)……小此木松子
◎日本基督教女子青年會夏期修養會(五)……記者
◎わが眼に映ずる日本の婦人界(八)……マグドナルド
◎クヰン・メリーとカルカツタ女子青年會(一一)……記者
◎反撥力(一二)……白井胤祿
◎話し方の研究(一七)……久留島武彦
◎耶蘇の苦衷(二四)……柏井園
◎イエシユダス(二八)……スモール女史作 小此木松子譯
◎友のひとりに(三一)森田松榮子
◎會の消息
△日本總幹事招聘△同費用醵集高△日本基督教女子靑年會委員會△東京基督教女子靑年會第六回總會△共立女學校△ウヰルミナ女學校

日本基督教女子靑年會發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子寄宿舍

基督教女子青年會は

牛込區納戸町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲に及ぶ限りのお世話を致して居ります

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります

入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい

尚同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます

寄宿舍委員長　今西糸子

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢、一部郵税共金五錢とす。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見慶子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員　萬國學生基督教同盟會委員　河井道子
明治の女子編輯主任　小此木松子

東京在住委員
津田梅子　エ、ピー、ウエスト
鈴木歌子　小此木松子
長谷川喜多子　二宮貞子
ジー、エム、フイシヤー　サラ、エリス

地方在住委員
大阪　廣岡浅子　大阪　荒木幸子
京都　佐伯小糸子　京都　ミス、デントン
京都　松田道子　廣島　ミス、ゲインズ
名古屋　ミス、ウインウキルソン　函館　ミス、プランロー

幹事
日本基督教總幹事　エ、シー、マグドナルド
同事務掛　アール、レーガン
東京基督教總幹事　エム、エル、マシユウ
同幹事　ジー、アール、ワトネ
同特志幹事　エム、ベーツ
明治の女子編輯掛　小橋三四子

クキン、メリーとカルカッタ女子青年會

△本文十一頁說明參照▽

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第九巻第六號（明治四十五年六月一日）

夏と修養

小此木松子

△夏と心身の自由

春がよいといひ、秋が美くしいと言ひ、期節の好き好みは種々ありませうが、夏にはまた一種言ひ知れぬ生氣が充ちて居ります。丁度我々多くの者の學業は暫時間を斷つ事となり、短い一と月、二た月を思ふ儘に送る事が出來る、或は常とは異つた有様に過す事が出來るといふのは、私共に取つて少なからぬ精力活氣を添へますものです。かういふ風に一方、身體と精神の束縛を解かれ、境遇の許す限り自由の境に思ひを走せ、身を移して見る、又一方には丁度此頃が我々の精神力の最も荒むで來る時です元來己れの學業なり職務なりに飽きるといつては誠に濟まぬ次第ですが、人間は、特に若い人々は、變化なしに永く一事にのみ携はる事が出來ない、何か一寸した、變調子、番狂はせが欲しくなる、丁度此要求が最盛になる頃が、長い學期の濟み際の夏休前頃ですが、其處に偶ま、三十日或は五十日、六十日の變化が起る。さうすると是は單に自由を得るからといふ計りでなく、變化を供給してくれるといふ理由て、吾々には、非常に嬉しく、非常に効力あるものとなつて來ます、是等の自由と變化とを得るが爲に、時節の暑いにも拘らず、夏は一種いひ難い、樂しみな、生氣ある、時節として歡迎せられる事になるのでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△夏の自然

吾々の休業は冬にもある春にもある、然し、冬休み春休みといふは、夏程樂しまれるものでは無く、夏程、思ひ出多き時ともならない。是は唯時日が短いから計りては無く、其期節の陰欝な事、心急はしい爲などて、一層、無意義に終る傾きがあるのだらうと思ひます、如何にクリスマス前後が静寂で、休息の時、一家團欒の時であるといつても又陽春の候が、地上の粹を集めた期節、落葉の頃は最も人情を穿つたのだと言つて見ても、一番に「ゆとり」のある、且つ、若やいだ、成長、繁茂の氣に充ちた時節は新緑の頃からかけた夏の天地に在りませう。最も多く戸外生活の出來る時代は人生の最健全な時代であると同樣、多く戸外に在るを許す初夏の候は、一年の、最健全な時節です、戸外に在る事が、已に此吾々座業者には言ひ難い快樂であるのに山あり樹あり水あるの地に遊び、自然の活力生氣を窺ひ知るの機會を得ては、其悦び樂しみ恐らく幼兒のそれと異る所は無からうと思はれます、斯の如き期節に當つて心身の自由と變化とを得易き機會を持つものは

大なる幸福を荷ふ者といはなければなりませむ。

△修養の時と其指導

斯の如く、夏が、萬物、生成の最盛なる時である如く、吾々精神の練磨修養にも、亦最適したる期節です、疲れたる心身は休日を得て回復に向ひ、多くの定まつた仕事も無い此時に、當つて、己れの靈を養ひ、己れを高きに導くことを心掛けるならば、是より更に收穫のおほい休息の時を得る事は恐らく難しいでせう、然し、單に向上を望み、發展を希ふといつても、徒に内に反省し、己れを苦しむるのみて、是を伸し助長するの方法が無かつたならば一種萎縮した、人格の畸形を造る事になつて終ひませう、此に於て適當な指導者の必要を認めます。或は書により、或は少數の師友により、又は一家の交友に依つて、適當なる指導の下に其日々々を送らるゝ方もありませう、其等はまことに幸福な方々といふ可きです。然し吾々多數の者は不幸にして或は指導者を見出さず、或は接近して敎を乞ふの機會を得ず、書を讀むに當つても亦、其方法の拙きか又は選擇宜しからざるが爲に、徒に時日を空費する事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も少くはありませむ。惜む可く悲しむ可き是等の缺を補ひ、夏の始めに於て適當なる指導者を供給して、お互に研究錬磨しやうといふのが、例年催される、本會夏期修養會の目的の一部をなして居ります。

△基督の愛

已に知らるゝ如く、修養會に於て、定まりたる時間を設け研究する所のものは、或は聖書に傳導に、社會事業に一として、基督の教に出ないものはありませむ、相倚り相扶けて、思ひを述べ、想を語り、以て其行く手を明にしやうといふのに歸するのです。然し決して夫のみで彼一週間の會合の目的は盡されたとは云はれませむ、啻に聽講、討論、研鑽、といふだけならば或は學術界の會合と同一視する事が出來ませう。そして其處には何等宗教、又は信仰の意義を見ませむ、其基督教の集會たる所以は即ち研究の結果是を實行に表はし、是を生活に應用するの如何に在る事を疑ひませむ、宗教を一篇の理論と見倣し口に喋々するのみてあつて其人格に其正義と温情とに其發動を見る事が無ければ、宗教は全く無意義のものとなり終りませう、即ち我々の修養會の一面は、研究の結果が砕けて人格を肥し、其生氣の溢るゝ所、是を會合の空氣の中に實現するといふ所に存するのてす。

世上往々口に基督の愛を説いて、行に基督の愛を傷くるものがあります、是を我主の無限大なる人格と、無盡深なる愛とに照して見ると、眞に憐れむ可き蜉蝣の朝に生れて夕に死する類とのみより思はれませむ、其枝を見て本を誤るもの眞に其少さと淺きとを歎かざるを得ませむ。若し、來る可き我等の會合にして、苟も、其温情の調和と一致とに缺くる所がある樣な事てあれば、長き時日と大なる腦力と費用とを費して催されたる集會も殆ど全く功なくして終つたものと見なければなりませむ。

而して、此事あるも無きも、一に吾々參集者の決心と眞情との如何に依るばかりてす、何事に依らず一の目的の爲に集つた團體及び其團結親睦が比較的容易なといふ事は日常屢々實驗する所です。況して其眼目を愛の教の實現に置き、山水の間、同志相待つて最も清き靈の樂を享けやうといふのてあつて見ると、吾々の會合の如きは優に理想的團體ともなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

得可き素質を具へて居るものです。まことに此樣な會合に於て得た、精神的滿足は、決して一生忘れる事の出來ぬ印象を與へるものといふ事は、種々な機會に就いて御經驗なされた方もありませう。

もはや六月の聲を聞いては、修養會の日も近づきました、諸姉の多くは吾々同樣、適當なる變化と信賴す可き指導者とを求めらるゝ方々であらうと思ひます。

どうぞ境遇事情の許す限り、七月下旬の一週間を同志と共に海邊の人となられ、熱心なる贊助と協力とに依て、恰も其場處が肉體に健康なる地である樣に、精神的空氣に於て亦、樂しく、優しき、美くしきものとせられむことを希望致します。

のこりなくみむれに　任せたる心にぞ
えもいはす絶えなる　幻を見るかな
うたはてやあるべき　救はれし身の幸
たゝへてやあるべき　み救ひのかしこさ

移轉

從來は日本基督教女子青年會と、東京基督教女子青年會と事務所を共に致し居り。候處、事務の擴張と共に狹隘を告げ、今回日本基督教女子青年會は六月一日より左に移轉致し候從つて本誌編輯部も同所に移り申すべく、編輯事務に關する事は勿論交換を願ひ居候諸雜誌等一切、御手數乍らその方に御送附下され度候。

牛込區田町三丁目
十二番地

日本督教女子青年會

尙東京基督女子青年會は、從來の通り麴町區三番町四十一番地にこれあり候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●日本基督教女子青年會 夏期修養會

日本基督教女子青年會第七回修養會は七月二十三日より三十一日に亘り一週間、神奈川縣橫須賀大津村勝男館に於て開かれます。曾て修養會に臨まれた御經驗のある方は、必ず聖書の講義や、諸先生の講演または種々の集會に由つて、宗教上の智識を啓發せられ、愈々信仰を養ひ、主耶蘇基督の恩寵のいや深きを感じ、神を愛し、之れに事ふるの熱誠を加へられしのみならず、多くの友と交り、友情を培ひ見聞を廣め、且つ美はしき自然の中に、これ等の清き一大家族と共に、宗敎的生活のいかなるものかを味はれたと喜ばるゝことで御座いませう、主催者一同は本修養會が多くの姉妹方の興味と同情とを意外に多く惹き起し得たるに勵まされ、講師の撰定と、諸般の設備とに注意し、今年の修養會は更に一層有効に致し度いと希つて居ります。殊に同地は近く金澤八景を控え、海邊の展望も亦よろしく、加ふるに遠淺にして、海水浴に適して居ります。されば求道者の方々はもとより、成る可く多く御知友の方々を御勸誘の上、奮て御出席の程待ち上げます

本會の趣意書幷に諸般の事項は、別に印刷致してありますから御入用の方は東京牛込區田町三丁目十二番地日本基督教女子青年會宛御申込を願ひます。

◎委員 「イロハ順」

委員長 二宮貞子　　修養會委員長 河井道子
委員 井深花子　　長谷川喜多子
川島芳子　　門倉藤子
ミス、ウエスト　　梅澤かね子
山田千代子　　ミス、マグドナルド
ミス、マシウ　　三谷民子
廣岡淺子　　鈴木歌子

◎會期

明治四十五年七月二十三日(火曜日)夕より同三十一日(水曜日)午前まで

◎會場

神奈川縣橫須賀勝男館

勝男館は同地第一の旅館でありまして、昨年の會場東屋よりも廣大であります、且つ會期は本會で借切りますから、多數御來會なされても、混雜する恐れはありません。且つ諸般の設備行き屆き、庭園廣く、數步の外は海邊であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此處に行きますには、東海道鐵道で横須賀停車場に下車し、それより勝男館迄、凡そ二十丁斗りの道程であります。人力車ならば、凡そ三十五錢で行きますが、もし半道歩めば田戸と申す所から馬車の便があり、賃錢は八錢で、旅館の前迄參ります。徒歩する方の爲めには、手荷物を運搬する爲め、勝男館から特に人夫を出しておく筈であります。

◎費　用

會費　金七拾錢　一日十錢の割
滯在費金八拾錢　一日分
同　金六拾錢　一泊二食
同　金貳拾五錢　一食

◎注　意

寢具一切は用意してありますが、敷布、枕布等は各自携帶を願ひます。また海水浴の爲めには海水服を御持參下さいまし。

●第七回夏期修養會順序

◎格　言

「先づ神の國と其義とを求めよ」馬太傳六、三三

▲七月二十三日(火)午後七時開會

開會式

▲二十四日(水)

(五時三十分)早天祈禱會

(自八時三十分 至九時三十分)聖書研究
- 未定　今井壽道君
- 豫言書の一節　横田貞治君
- 基督教原理の初歩　山田千代子
- 基督の神の國に就ての教へ　ミス、マグドナルド

(自十時 至十一時)基督の教訓と婦人問題　廣岡淺子

同　午後

(自三時 至五時)懇話會

(自七時 至八時)青年會協議

日本に於ける基督教の事業　司會　三谷民子

▲二十五日(木)午前

(自八時三十分 至九時三十分)聖書研究—同前

(自十時 至十一時)勸善懲惡か宗教か　今井革君

同　午後

(自二時)求道者懇話會

(自六時十五分 至六時四十五分)夕陽會

(自七時 至八時)實驗上の宗教　今井革君

▲二十六日(金)午前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（五時三十分）早天祈禱會

（自八時三十分至九時三十分）聖書研究―同前

（自十時至十一時）絕對的服從の宗教　安部清藏君

同　午後

（自二時）親睦會

（自七時至八時）青年會協議

支那、朝鮮、印度に就て　指導―梅澤かね子／ミス、ワトネ

▲二十七日（土）午前

（自八時三十分至九時三十分）聖書研究―同前

（自十時至十一時）「先づ神の國と其義とを求めよ」　長尾半平氏

同　午後

（自二時）遠足

（自七時至八時）青年會協議

▲二十八日（日）午前

（自九時三十分至十時）讚美禮拜

（自十時至十一時）基督の婢　元田作之進氏

同　午後

（自三時三十分）靈的修養（其一）　宮川經輝氏

（自六時十五分至六時四十五分）讚美禮拜

（自七時至八時）青年會協議

日本に於ける青年會の將來　指導　河井道子

▲二十九日（月）午前

（自五時三十分）早天祈禱會

（自八時三十分至九時三十分）聖書研究

（自十時至十一時）攝理　山室軍平氏

同　午後

（自四時）靈的修養（其二）　宮川經輝氏

（自七時至八時）青年會協議

▲三十日（火）午前

（自八時三十分至九時三十分）聖書研究―同前

（自十時至十一時）聖別と献身　植村正久氏

同　午後

（自七時至八時）送別會

起床六時　朝飯七時　晝飯十二時

夕飯五時三十分　消燈十時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わが眼に映ずる日本の婦人界

エ、シー、マグドナルド

左の一篇はマグドナルド女史自ら日本語を以て草し、東京キリスト敎女子青年會第六回總會の席に講話せられたるもの。但し原稿はローマ字を以て記されたり。

△年々に進歩する本會の事業

私は個人でも一つの團體でも社會の事業でも同じ事で御座いますが、成効するとしないとに依つて、その價値をきめる筈でなく、やはり精神によつてきめる筈であるといふ事は、確かであると思ふので御座います。それ故今委員の方から御報告申上げました東京キリスト敎女子青年會の報告が勿論私共のして居る事業を現はすに違ひないので御座いますが、然し乍らもしあなた方はこの報告にありましたやうに、今迄出來上がつた事業はこの團體の理想をも現はしたものであるといふ事を思ひましたら、それは誠に心得違ひであらうと思ひます。私共は六年前から今迄の女子青年會の事業の進んだ有樣を繰り返へして考へて見ますと、その有樣は最初は即ち六年計り前には聖書の組も、青年會の支部も、寄宿舍も、夏期講習會も、雜誌も、日本に居る支那の青年女子の爲めの働らき等も少しも御座いませんでしたが、今は青年會の支部は二十個所に設けられて、その全國の會員數は千五百人で、そして今年開く夏期講習會は第七回目で、その昨年の講習會に出席した女子學生が、全國から二十二の學校を代表して集りまして、その數は百八十人位で御座いました。またもはや出來上つた寄宿舍が二つありましてまた今東京に居る支那の女學生の爲めに働らいて居る二年程亞米利加で勉強した支那の方もあるので御座います。そう云事などにつき考へて見ると、私共の事業は段々進歩して居るので御座いまして、誠に神樣に深く感謝する筈であらうと思ふので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△今は婦人の時代

處がキリリト教女子青年會の理想とする事業に比らべて見ると、この今の危い社會に於ける若い婦人の爲めに、まだ手を着けなかつた事業も、またこれからその爲めにしなければならない事業も、實に多う御座いまして、今迄に致しました事業は、その百分の一にも足りませんので御座います。それ故私共は決して滿足が出來る筈でないと思ふので御座います。却つてこの大なる働らきに對して、私共は謙遜な心を以て、私共の責任を果す事はよい機會を利用するかしないかにあるといふ事をいつも考へて居なければならないのであると思ひます、今日の時代は私共がこの世界が今迄に遇はなかつた程の進歩的の時代であると思ふので御座いますが、それ斗りではなく、やはり今の時代は日本にも外國にも婦人の有樣の進歩する爲めに働らかなければならぬ大切な機會であつて、之迄にためしのないよい場合であると信ずるので御座います。即ち今の時代は婦人の時代と申してもよろしいと思ひます。それ故私共はこの婦人問題を解決する爲めに何か致したいと思ひますならば、是非個人的にも一生懸命に働らかなければならないに違ひないので御座いますけれどもそれ斗りではなく又私共同し主義の者が一つになつて一緒にその大なる大切の働らきを致す筈であると思ふので御座います。英語の諺に"Union is strength."「結合は力である」といふ事が御座いますが、それは全くの事で御座います。

△誘惑多き青年女子の爲めに

其れ故私共若い婦人の有樣を進歩させる事に興味を持つて居る方々は、交際上にも精神上にも常にそれ等の若い婦人の進歩の爲めに充分力を盡す筈であると思ふので御座います。例へば神田のやうな處は御承知の通り澤山の下宿屋等があつて、男の學生斗りでなく、女の學生も澤山集まて居るので御座いまして、その境遇は勉強する爲めにも、運動する爲めにも、休む爲めにも、いゝ處がなくて、いつも慰みも愉快もない誘惑の多い處に出入して居るので御座います。このやうな女學生の爲めに交際上にも精神上にも、有益な事業を始めるといふ事は、今日の有樣から考へて見ると、私共キリスト教女子青年會の者が任じて爲すべき事ではありますまいかと思ふので御座います。また御承知の通りこの東京には澤山

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の病院があつて、その病院等に働らいて居る看護婦は實に二千人もあるといふ事で御座いますが、その人々の間の精神的の働らきは、全く缺けて居る樣に見えるので御座います。或人が病氣にかゝりまして永い間或る病院に入つて療治を致しました。その間に病院の看護婦が病人に對して不親切な不公平な取扱ひをしたり、又風儀の惡い有樣などを見まして、どうしてもその樣な看護婦の間に精神的の働らきが必要であると思ふ事を感じて私に話した事が御座いますが、ほんとうにこの看護婦の働らきはいつも病人と一緒に居つて、心の上にも肉體の上にも非常な骨折りと心配があるので御座います、もし靈的の修養なくば到底その勉めを盡す事が出來ないので御座います。處が今の看護婦社界にはそれが一番缺乏して居るのですから、私が聞いた樣な話のあるのも無理のない事で御座います。それ故このやうな人々に對して働らく事も、また私共キリスト教女子青年會の働らきの領分ではありませんでせうか。

△職業を持てる婦人の爲めに

それからまた女學生や看護婦等の爲め斗りでなく一つの女學校を卒業した婦人達の爲めにも私共はまた働らかなければならない餘地があると思ひます。例へばこの節は婦人が事業上の事に働らく道が大分開らけて參りまして、この東京で會社とか、商店とか、銀行とか、或は郵便、電信、鐵道などの爲めに働らいて居る婦人は五萬人もあるさうで御座いまして、その中で會社、銀行、商店等に入るものは、女學校の卒業生が多いといふ事で御座いますが、この婦人達は相當の教育もあり、智識もあり、ましてその働らきに於ては充分これに堪へる事が出來ますけれども、精神的の方面から考へて見ると、何にも持つて居るものがないので御座いまして、いつも其心の中には淋しい感じがあるので御座います。このやうな人々に對しても相當な交際上、また精神上の慰安、又は力を與へませんならば、思はない誘惑に負けて終ふ事があらうと思ふので御座います。このやうな婦人に對して私共キリスト教女子青年會は適當なる働らきをするといふ事は必要ではありますまいか。女學校を出た婦人の外の實業に從事して居る婦人、その外またこの東京に五萬五千人も居るといふ工女等の爲めにもよい機會を得て、何とか精神的に之れを救ふ働らきがやはり吾々キリスト教女子青年

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の內から起らなければならない事であらうと思つて居るので御座います。

△信仰ある處に實力あり

然しこのやうな事は勿論女子青年會の責任でありますけれども、私共の今日の有様はまだ凡てこれ等の事を滿足にする實力が足りませんのでありますから、どなたでもその心のある方は皆一つになつて私共の事業に力を添へて戴き度いと思ふので御座います。殊にこの社會に位置を持つていらつしやる方々は、この問題に注意して、いつもこれを研究なさつて次第にこの世の中の不完全な點が無くなつて、益々向上發展するやうに勉めて下さる事をお願ひ申したいのであります。このやうな事を考へて見ると、女子青年會の責任は誠に大なるもので御座いましてこの責任を遂げる事は中々容易な事ではありませんと思ふので御座いますが、然し聖書を讀んで見るとあなた方はよく御承知であらうと思ひますが、イエスの弟子達の傍らに或日病人が癒されん爲めに來ましたけれども、その弟子は之れを癒す事が少しも出來ませんでしたから、イエスに聞きて「主よわれ等これを逐ひ出す事能はざりしは何故ぞ」と聞いた時に、イエス答へて「汝等信なきが故なり。われ誠に汝等に告げん、もし芥子種子の如き信あらば、この山に此處より彼處に移れといふとも必ず移らん。また汝等能はざる事なかるべし」と御仰いました。このイエスの教訓はまた私共キリスト教女子青年會に對する大切な教訓であると思ひます。ほんとうに皆さんお互ひに眞面目な心を以て、日本のあらゆる方面の婦人達の爲めに、神の御力を受けて、一心にわれ等の使命を無し遂げたいと思ふので御座います。

クイン、メリーとカルカツタ女子青年會

口繪說明

本誌前號より連載のイエシユダスを讀まれる方々は、必ず作者をゆかしく思ひ、また印度に就て何かを學び度いと思はれる事で御座いませう。それ故スモール女史の寫眞と、印度の風景とを求めましたが、ふさはしいのが見當りませんでした處、丁度印度カルカツタ女子青年會幹事ラツドホード女史が歸米の途本會に立寄られ、兩三日寄寓致されました。生憎求めた印度の風景の寫眞は持たれませんでしたが、それにもまして誠に興味ある寫眞を貸して下さいました御口繪に揭げたのはそれてあります。これは英國皇帝が即位と共に印度に君臨せらるゝ爲め、本年一月印度に於て戴冠式を舉げられました事は御承知の通りであります。其際皇后のクヰンメリーが態々カルカツタ女子青年會を訪はれた時、奉迎した一人が小さきコダツクに納めた御姿ださうであります。どうぞ心して御覽下さいまし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

反撥力

白井胤綠

▼人には反撥力がある。此の反撥力がある爲めに、志を立て、德に進み、信仰を養ふに至ることが少ない。水の流は妨げるもののある爲めに却つて之に激して其の勢を增す。護膜毬の如きは之を地に敲き付けることが强ければ强いほど高く撥ね上がる。人生には色々な不幸な出來事がある。之が爲めに人は屢ば壓迫されたり、妨けられたり、敲きつけられたりする。然し是れは一方から考ふれば人を敎育し鍛錬する學科である。反撥力の强いものは、斯る不仕合せな出來事に打突かつても、決して挫けたり、屈したり、失望したりするやうなことはない。否な寧ろ此の機會を活用して大いに發展する。壓迫するものが大きく强ければ、其の勢ひを逆に用ゐて大きく高く發展するのである。人生の試驗は甚だ鋭く、嚴かな、また中々面倒なものである。然し人は此の活ける試驗を續けなければ其の生命を全うすることが出來ぬ。人生の學問は時としては涙にうるんだ眼を以て讀まなければ解することが出來ぬこともある。張り裂けるやうな胸を懷いて、始めて辛うして卒業の出來ることが少なくない。

▼獨逸の或る地方の貴族が、曾て二つの高い塔を有する城廓を築いたことがある。彼は其の一方の塔と他方の塔との間に種々の金屬を以て作つた張金を大小取り混ぜて幾條となく張り渡した。空淸く風收つたときは、何の事もなく殆んど無意味のものの如く見えるが、一朝風吹き起ると其の幾條かの張金は各々特異の音を發し、宛がら竪琴でも彈ぜられるが如く、其の妙實に云ふ可らざるものがある。年老いたる貴族は其の居室に座して此の雄大なる音樂に耳を澄して樂しんだと云ふことである。人生の風が吹き付けるときに、人心の琴線は始めて其の妙へなる音樂を奏することが多い。

▼人生の大いなる不幸の一つは、病氣である。折角志を立て丶大いに爲すあらんとした青年が圖らずも病に犯されて其の志を抛たねばならぬこともある。實に人生の不幸之よりも甚だしきはない。中には之が爲めに失望して了つて、力なげな日々を送つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居るものもある。然し是れは子供の路に倒んだときに其のまゝ泣き立てゝ誰かの來るのを待つて居るやうなもので、甚だ意氣地のない話である。泣いて居るよりも起つが好い。ゼスイト會の創立者イグナシアス・ロヨラは、齡正に三十青雲の志燃ゆるが如きものであつたが、パムペルナの戰爭に負傷し、生れもつかぬ跛者となつた。然し彼は之に屈せず、却つて之が爲めに新しい生面を開いて、其の名を不朽に傳ふる聖徒となつた。又蘇國の牧師チャルモルスは大病に犯されて初めて人生の深いところが解つて、其の說くところも聽くものの宗敎心に觸れるに至つた。英國の文豪レイ・ハントの如きも同じやうな經驗をして居る。彼は余が若し英國の思想界に貢獻したものがあるとするならば、其の多くは病床の賜ものであると云つた。實に病氣は人格の力を試驗し、之を精錬するものである。ロバアト・ルイス・ステウエンソンなる人は多年激しい病に襲はれ、之と力戰苦鬪した。彼は藥瓶や寢床の陰氣な穢しい病室のうちにあつて、宛がら勇士が戰場に立つて居るが如き心持で、病魔の勢ひと戰ひ、血に染みつゝも尙ほ筆を執つたといふことである。病床の上でも英雄的の功績は建て得られる。塙檢校の如き、ヘレン・ケラアの如き、失明の不自由と戰つて學問を修め、また多くの書を著して世に貢献したではないか。英國のヘンリイ・フヲセット敎授は明を失つたときに『余はたとひ視力を失つても其の明かなるものの爲すが如くに爲さん』と決心した。かくて彼は巧みに馬に乘り、氷を滑り、また學殖深き敎授となり、國會議員となり、更に國議に參與する身となつた。かの有名なる『失樂園』はミルトンが失明した後の作ではないか。彼が其の詩を口授し、長女をして之を筆記せしめて居る繪畫があるが、其の沈痛なる面には一種のインスピレエションがある。バルザツクは『勝利者たれ。宇宙は志し、愛し、且つ祈るところのものに屬する。されど彼は志さゞる可らず、愛せざる可らず、また祈らざる可らず』と云つて居る。此の心懸けさへあれば、如何なる境遇と戰つても決して後れを取ることなく、必ず之に打ち勝つて之を我がものとし、禍を轉じて福とすることが出來る。

▼人生にはまた死といふ悲しむべき出來事がある。此の儼なる出來事は古へから人の心を引き緊らせ、眞面目な生活をなさせるものである。古代の埃及人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の風俗や習慣を調へて見ると面白いとが澤山ある。彼等は宴會を開くときに酒酣なるに及び、主人はやをら立ち上り備へてある木乃伊を取り出して、之を賓客に披露するの風習があつた。其れは云ふまでもなく樂んで淫せざる精神から出たもので、客に向ひ道義の念を喚起せしめ、人間の快樂は暫しの間なるを悟らせ、又互に相愛すべきことを敎へんが爲めであつた。然るにグリシヤ人にも此のやうな風習が行はれたが、其れは全く精神を取り違へて、人生の常なきことと實に斯の如し、故に須らく快樂を恣にするに如かずとなし、却つて酒興を添ふる道具としたことである。物事は見やう一つて何うとも取れる。然し死てふ儼がなる事實に打突つたときには、人の心は必ず本來の我に復へるものである。浮々しては居られなくなる。何うしても人生の意義を考へて、人間の本分を盡すことに骨を折らねばならぬやうになるものである。聖アウガスチンは若くして學問も優れて居たけれども、隨分放蕩な生活を送つた。然るに其の後彼は斯る生活を脫却して、眞面目な潔白な聖徒の生活を送くるに至つた。斯くなるには色々の事情や刺激があつたのであるが、其の一つは友人の死であつた。彼の親しい學友が長い間激しい熱病に罹り、危篤に瀕したときに基督敎の信仰を起して洗禮を受けた。アウガスチンは其れを聞いて一つからかつてやらうと思ひ、友人の病の輕くなつたときに出かけて色々云つて見た。然るに友人は例に似ず、敵を避くるが如くにアウガスチンの議論を避け、かくて俄かに容を正うして「若し二人の交際を絕つことを欲しないならば、斯の如きことを云ふてくれるな」と云つた。アウガスチンは一方ならず驚き、いづれ其の友の全快を待つて論決せんと思つて差し控へて居つたが、豈に圖らんや是れが永き別れとなつて了つた。此に於て彼は身も世もあらず悲しみ、天地が全く暗黑になつたやうな心持になり、次第に精神上の深い問題に考へ及んだことである。

▼ルウテルの傳記にも之と思ひ合す事實がある。彼は或友なるアレキシスと親しく語らひつゝ途を往けるとき、激烈なる雷鳴と電光とに擊たれて二人とも路に倒れた。其の友は此の時頓死したとも云はれる。兎に角ルウテルの生涯は此の出來事から一轉した。彼は志を決して修道院に入つたことを父に書き送り「余は僧侶となれり。安逸なる生活を送りて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

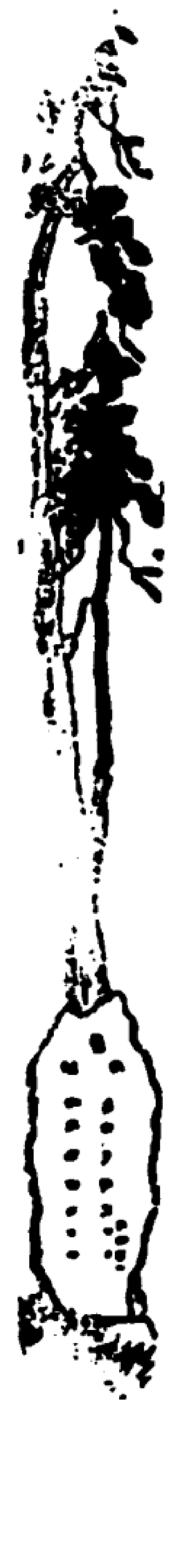
我が身體を肥滿せしめんとにはあらず。突然來るべき死の恐怖は余を壓して僧侶たるべき誓言をなさしめぬ」と云つて居る。又或る人は母の死の有樣を見て、深く感動し、不正則なる生涯を改めたことである。彼等の心持を語つて曰く『余は病める母の枕辺に立ちたる當時のことを忘るゝことが出來ぬ。余は母に問ふた。「死を恐れませぬか」。母は「否」と答へられた。否とか、茫漠として知る所なき他界に思ひ及ばれても何等の憂ひも起りませぬか」と再び問ふた「神は汝ら恐るゝな、此の河を渉るとき、私も汝らと共に居る。河も汝らを溺らすとはなからうと云はれて居るものを」。余は此の答を聞き、余をして義人の如く死することを得せしめよと心に云つた』と。要するに死と云ふ事實は人をして宗教や道徳に心を向けしめ、此の方面に於て大いに志を立つるに至るものである。

▼然し英國の大政治家ヂョン・ブライトは、其の愛する妻の死んだ爲めに、政治的生涯の新しい紀元を開いたことである。彼は妻を迎へたときに『人生が蓄へて居る總ての幸福は今我がものになつた。余は喜びを知るも悲しみを知らぬと云つた位である。其の夫婦の間は琴瑟相和すと云つたやうに樂しく美しく暮したのである、然るに其の甘美なる夢は僅かに十二ケ月しか續かなかつた。彼は年まだ若くして妻に先立たれ、苦き盃を飲んで、空しく果敢なき記憶を辿らねばならぬことになつた。此の時に當つて、彼の親しい友なるリチャルド・コブデンが來て之を慰め勵まし、此の薄暗い關門を潜り拔けて大いに爲すべきことあるを語つた。曰く『英國には饑ゑて死に瀕する妻や、子供が擧げて數ふ可らざるほどあるではないか。愛は君として家庭の幸福を味ふを得せしめた。今や其の愛は君を導いて他人の家庭の爲めに力を盡すに至らしめんことを望んで居る』と。此の一言にブライトは豁然として悟るところあり、偏く津々浦々まで巡回して貧民の實況を視察し、其の熱心なる味方となり、穀物法の問題の起つたときには死力を盡して之が爲めに戰つた。かくて愛するものの死に由つて受けた心中の深傷は辛うして癒された。然かも其の愛は曾て思つたこととは全く異つたものとなつて彼を導き、遂に彼をして幾萬の貧民の擁護者たらしめたことである。

古來艱難は人を玉にすとも云ひ、また窮困は創造

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の母とも云はれる。不幸なる人生の出來事に由つて人は自分を磨き上げられ、また窮すれば必ず通ずて何所かに自分の運命を發見するものである。不利益な事情と戰ふことに由つて其の潜んで居る實力が現はれる。宗教哲學などの著書を以て我國にも名の知れて居る佛蘭西のサバチエが、其の傑作の一つなる聖フランシス傳を著はすに至つたはづみは、逆境に沈んだ爲めであつた。彼は巴里で學問をした後、ストラスボルグの或る教會の牧師となつた。數年間立つて地盤も堅固になつた頃、一月平和協會々員たる一英國人が來訪し、彼の宅にて集會を催ほさんことを請ふた。サバチエ之を承諾し、來聽者の世話をもした。然るにかの英國人は演説中に時事問題に論及した。固より是れが官憲の感情を害ふやうなことがあらうとは思はなかつた。然るに獨逸の官憲は然か考へず、翌日サバチエを召喚し、二十四時間以内に此の市を退去すべしと命じた。斯の如く彼は慘めにも國外に放逐せられて、家もなき流浪の身となり、アシシの町を訪ふ。是れは彼が慣れし市を立ち退くに當つて、第十三世紀の聖徒フランシスのことを追懷し、同時に巴里に居た頃師事した老教授レナンが「余は常に爲さんと望んで居たが、今は年老いて之に堪へぬやうになつたから、君幸に余の志を繼いでフランシスの傳記を書いて呉れよ。君は其の時代と其の人物とを熟知して居る。余は君が之を物せんことを囑望する」と語つたことを思ひ出したが爲めであるといふ。彼は逆遇に於て圖らずも舊師の言を思ひ出て丶此に己が使命を悟り、かくて新しい生活を開拓し、其の名聲を天下に高からしむるに足るべき著述に筆を染むるに至つた。其の他失戀の悲しみを蹴破つて新しい天地に躍り出た勇士も少なくない。斯の如く數へ來れば、人生の不幸や、不利益なる事情は、之に打突るもの丶心の持ち方一つで如何樣にもなる。順境が必ずして幸福でもなく、又逆境が必ずしも不幸でもない。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

話し方の研究

久留島武彦

先頃中央バプテスト教會に於て、特に日曜學校教師諸氏の爲めに氏を聘して話し方の研究に就き、講話を乞ひました、これはその概要を記したものであります。

△話しに就て苦しむ點

話し方に就て私の始終苦しむ點は、どうすれば聞く者に自分の思ふ丈けを徹底せしめ得るかといふ點であります、今の我々は如何に話すべきかのお手本を社會に持たないのであります。昔はお使者の口上などいふ特別な役目があつて、如何にせば先方に充分の敬意を表し、我が主人の貫目を下げず、第三者であり乍ら、當事者の意思を徹底し得るかといふ事につき、隨分苦心もし、その口上をも練つたものであつた。然し昔の人は人の心は知り度いが、自分の心は成る可く知らせまいといふので、「君子は容貌愚なるが如し」などゝいふのを理想として居つたのであつたから、務めて自分を匿し、内側の方は見せず包んで、向ふを見るので、只單に話させて聞くのであつた。それ故に我々の内面の心を現はすといふ眼なども、成る可く動かさない工夫をしたものである。不幸にして我々はその遺傳の上に立ち今日はどうすれば自分を最も能く現はす事が出來るか、我が内心を人に徹底せしむる事が出來るかといふ急務を研究しなければならなくなつて來た。此處には先づ話し方に就ての一般の智識を述べ、次にその部分部分の訓練に就てお話して見たいと思ふ

△話す事は二分の一の作業

話し方といふは小學校に於て讀み方、話し方、書き方、綴り方といふその話方を取つたのであるが、小學校のは子供自身に話させ、同時に教授訓練を與へるのであるが、此處でいふ話し方は大人が子供に

話す場合の話し方である。一般の人は子供に話すには何か話し方が違ふだらう、子供に向つては子供を扱ふ骨を握る事が、話す事よりも大切ではないかと考へる、私の處に品川の方の落語家の前座を務める人が弟子入りをしたいと云つて來た。その人が云ふのには、「自分は子供に話す時には、特に苦心して、踊らん計りにしてやるが、どうしてもその骨の分らないので、上手にいかぬ故、どうぞその骨を敎へて貰ひ度い」と云ふ事であつた。然しこの人はほんとうの話を知らぬと云はなければならぬ。骨とは子供の捕まへ所の秘點で、その秘點は何かといふに、子供の持てる過去の經驗、現在の智識、興味にこつッと當て篏めること、簡單に云へば子供の考へと、此方の考へとをこつッりと手取早く當て篏める事で、畢竟子供の持てる土臺の緣に依つて、子供が極く早く、短く、速座に解せらるゝ樣にするのが、話し方の上手といふので、下手はこの骨が掴めないのである。然るに大概の人は、子供によいお話をすれば、いつても解り、面白い話ならいつても聞くと思つて居る。即ち話しさへすれば解つてくれると思つて居る。然しよくよく研究して見ると、此方がよい。面白い話をして居ると思つても、子供はさうは思つてくれぬ。骨組に力を盡し、手を振り、足を動かして話しても、一向子供は聞いてくれぬといふのは、何か違つた他の仕事が入らなければならないのではあるまいか。自分の考へるのに、話し方は話す目的からいふと二分の一の作業である。

△最もよく聞かしむる法

話す事は話す目的から云ふと二分の一の作業であるとは、如何なる事かといふに、例へばお寺の鐘がゴーンと一時が鳴る。茶店の婆さんはその眞下に居りながら遂聞かなかつたといふ。丸の内を歩いて居ながら、ドンを聞かない事は稀らしくない。甚だしきは火鉢を圍んで、差向ひになつて居りながら、甲の云ふ事を乙が聞かないで「オイ君、今何て云つたんだ」など丶聞き返へす事等が往々ある。これは即ち話すといふ事は、話し方と、聞かせ方とが各二分の一宛を占めて居る事になる。然るに如何にせば、最もよく聞かしむる事が出來るかといふ事に就て、注意する人は殆ど無い。然し話す以上はその目的が聞く人に徹底して、效果を奏しなければ、鳴る鐘や響く鈸と撰ぶ所がない。而して人に聞かしむるには

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

準備作用がなくてはならない。その準備として必要なるは、第一場所、第二時、第三人、第四が話す自分である。即ち昔から云ふ天の時、地の利、人の和といふのが、矢張り此の事である。

△場所の品位

之れに就ては實例で話すと一番よく解る。私共が地方に招かれて話しする時、或は縣會議事堂で、或は小學校の講堂で或は劇場で話す事もある、劇場は子供の出入りにも善し、大勢入れる事も出來、聲の響きもよいからと云つて、其處を會場に撰ぶのは地方でも進んだ敎員である。學校、縣會議事堂等は之れに比して隨分不便利もある。折角話に興が乘つたと思ふ時、小使が村役場の手紙を持つて入つて來たり、縣會議員が來たといふては「どうぞ此方に、どうぞ此方に」と大聲をたてられたりするが、然し話し終へて校門なり、議事堂の門なりを出る時は、幾千の兒童は皆帽を取つてお辭儀をし、遲れざらん事をこれ恐るといふ風である。然るに劇場で話した後では、子供等が「今話したのはあれだよ」「あの人が今話したんだよ」と指さして、あれが取扱ひにする。場所の效果はこれ程著しい、相違がある。帽を取つてお辭義をする時の生徒の心には、多少何か效果を與へる事が出來たので、いかにも愉快であるが「あれが〳〵」と指さす時にはもはや、その講話者に何等の尊敬も無い印で、從つてその效果は零である即ち話す場所としては大層便利であり、從つて話しは上手に出來ても、聞かせるその場所に添ふ習慣聯想が附加して、その話しの效果を制限し割引するのである。

△會場の設備とその準備

前に述べたのは場所の品位に就ての注意であるが有形の問題に就ては更らに考へなければならぬ、演者はもしずつと控室に入つたきりで、自分が立つて話する、場所を知らないで講壇に立つなどは、不心得千萬である。先づ話し手は場所はどういふ風か自分が起つ所は中心になり得る所か否か、自分が立つて話す時、その左右の處に注意を破る出入口はあらぬか、又話す聲に對して外から之れを亂すやうなもの、例へば左右の窓より風を受けては居らぬか、自分の聲の分量はその室にどれ程が一番相應はしいかまた丁度講壇に立つた時、自分の心を動かすものはありはしないか等を考へなければならない。話す事

は精神作業であるから、充分話す前に調らべなければならない。もしその注意を疎かにして、話す時、電車の音がゴウ〳〵聞えるとか、風がヒユ〳〵と話す聲を遮るとか、人の出入りが始終講壇から見えるとかいふ樣では、それに戰つて敗けまいとするので非常に咽喉を傷める。これがかの謠曲や鼓を打つ人がどう〳〵と瀧の音や、波の音の寄する所に行つてそれと戰つて敗けない樣に稽古する所以で、畢竟精神の修練である。殊に子供を多數新らしい場所に集めると、そわ〳〵とする、これは新らしい場所から無意識の刺戟を受けるので、場所の與へた不安、愉快、好奇心等が、小さき心をそゝり立つるのである聞く人にさへこれほどの場所の影響があるとすれば話す方は猶更らである。それ故室の空氣、光線、出入を考へ合せて、少くとも、演說する者から四十五度より以內は、充分に保護する必要がある。

△聽衆の注意を纏める法

もし聽衆の注意が亂れて居る時には、話す人がその注意を纏める工夫を要する。それに就て自分の感心したのは福澤諭吉先生である、先生の演說の前には大抵他の人の長い演說があつて、聽衆が倦み切つて居るのであるが、やがて福澤先生は講壇の後方にある戶を排して出て來られると思ふと、必ず羽織を着ながら來られる。そして悠々と端を合つせ、紐を結び、やをら顏を撫でゝ「今日諭吉のお話しやうと思ふのは、別の事でもないが」と口の中で呟くやうに云つて、さて「獨立自尊である」と云ふ。聲の聞える時から聞いて、何も聞き落す事はないのである、初めの中は先生はなぜあんな事をなさるのかと思つたがこれこそ聽衆の注意を纏める爲めであつた。先生が出て來られたかと思ふと羽織を着る、ヘテ妙な事をすると思ふと、悠々と端を合はせ、紐を結ぶ、それから顏を撫でると思つて見て居る間に、ざわついて居る講堂の人は、皆注意が一所に集まつて、大事な話をする頃は皆の心は、話し手の中にあるのである。福澤先生の事は望んでもう見る事は出來ないが近く和田垣博士などは、この傳をやられる、博士が椅子に腰掛けて居る間は、極めて無雜作なものである、やがて講壇に立つと頻りに高く掲げてある自分の演題を見て、講壇を彼方此方步るきながら道德と國家の大本を論ず（例へばこれを題とすれば）か吾輩はこんな六ケ敷い題を今初めて見たの

だが、どうも困る。こうして居る間に考へなければ道德と國家の大本を論ずと繰り返へし繰り返へしかやうな事を云つて居つて、扨て話し出すと材料澤山の話を、一時間でも、二時間でも話されて、なかなか講壇て急拵らへのものではない。かやうに一種のペテンをやらない迄も、聞く方の注意が他から妨げられないやうにするのは、話す人が工夫を要する所てある。殊に今日我が國の日曜學校には特別の建物を持たず、彼方に一團、此方に一團といふ樣に集まつて、お互ひの聲に邪魔されながら、大切な精神の生命に係はる事を傳へやうとする事は、實に容易ならぬ事と思ふ。

△場所と聲

次に場所と聲との關係を考へ、その部屋はどの位の反響あるかを見なければならない、西洋の或る有名な傳道者が、招かれて某地方に行くと、その傳道師の會話の聲が小さいので「失禮ですが會場を御一覧下さいまし」と、言ふと、やがて會場を見て「これ位ならば大丈夫です」と云れたといふが、普通多くの人は大きな聲を出し過ぎるのである。聲は大きくくなても聲が會場に擴がるか否かを見ればはよい。新らしい場所に入れば、どの位に擴がるかを見るのはむづかしいが、人の話すのを聞けば分る。かくして自分と部屋と同化して終ふのである。たとひ自分の左右四十五度の範圍が保護されて居ても、光りの工合てすつかり注意を破る事がある、右の天井の丸窓から目を射る光線が入つたり、フートライトの如く足下から光線がさしたりしては、とても堪らない先づ場所の有形の注意としては、人の出入、空氣の流動、即ち風の入り方、光線の工合、この三つを見る事が大切である。

△時の問題

例へば理屈ぽい講演するその夜、近所に緣日でもあつて、ドンチヤン〳〵やつて居るやうてあつたら、とても聽衆の注意を纒める事は出來ない。それ故演題を豫め定めて置いても、時に依つて變へる必要はある。けふは「燕の恩返へし」といふ事を話さうと思ふと、時候が蒸暑くて、公衆が汗水になつて居るにも拘らず、三十分でも四十分でも、自分の考へて來た事丈けは話して終はなければ止めないとか、また二三人組んてやる時、前の人が長談議をやつた後に立つて、聽衆が倦み切つて居るにも頓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

着なく、また長い話を續け、聽衆は話が終ると「ヤレ助かつた」と、思ふやうでは。その話の効果が全く無いのみならず、前のをも皆殺して終う事になる。これに就て私の常に感服して居るのは、江原素六先生であります。先年戸川殘花翁が舊領地の岡山を巡られた時に同行して、諸所で演説をやられた。土地の者は戸川氏は舊領主として見ゆる事を喜んだが、話は江原先生のを眼目として置いたのである「然るに戸川氏は舊領地に來たといふので懷舊の情に堪へなかつたのでありませう、隨分長い話をせられたが惜しい事には聲が低くて聞えない、聽衆は江原翁の話しを待ち望んで居つたが、やがて演壇に立つて「私は今日書いたものを持つて居りますからこれを讀みます」と話の筋を記したものを讀んだ。その爲めに前の演者の話が著しく引き立つて來たのである。然し江原翁の話も後で印刷に付したものを見れば中々堂々たるものであつた。かくの如く二人以上が組めば、その組んだ人々が責任を分擔しなければならない譯である。此處の呼吸を能く呑み込んで居るといふので、高田實が川上音次郎を常に讃める材料にして居る。川上といふ人は實に場所と時とを知つて居つた、川上が舞臺に出て居る時は皆が安心してやる事が出來た、外の人が占め過ぎると川上が縮める、やり足らなければ補してくれるので、舞臺がきちツと締つて行く。それ故川上自身の藝は下手なやうに見えても、一幕のきゝ目が見える。然るに私はまだとかく自分といふ者を見せ度いので、いつも遣り過ぎては調和を缺く」と云つた。味ふべき所であると思ふ。

△聞く人

如何によい話をしても、話が聞く人の程度に合はなければ、頭の上を通り越したり、椅子の下を潜つたりして、肝腎の耳に入らない、よく母の會といつて招かれるので、此方はその用意で行くと會衆の大部分が母たらんとする人、もしくは若い女子學生が多いなどゝいふ事は、稀らしくない。それ故話す時には會衆を見て話を建て變へる必要がある。

△話す者自身

人がよく話す時にはどういふ態度を取つたらよいか、手は何處に置いたらよいかといふ事を聞かれる之れ等部分部分の事に就ては、次回に話す積りてあるが、之れ等は話すといふ事より云へば、極めて末

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

端に亘つた事である。而して話の始りは演壇に立つて第一の詞を發した時より始まるのであらうか若し自分がその部屋に入つて來て、不爲體な身振りして椅子に倚り、立たうとして原稿を見失つてまごつき怱惶として壇に上り「人格と修養」といふ話をしたとするならば如何であらうか。諸君は必ず十話しても七或は六より耳に入らぬであらう。その話は何處て割引したのであらうか。話の初まらぬ前の態度である。さう考へて見ると誰れが何といふ題で話すといふ時、既にその話は初まる、浮田博士が「婦人問題」に就て話すといへば、信用を以てその話を、聞かんとする、斯く考へると實に大根本の問題に至らなければならない。故に此處には限りをつけて、話の初めは演者が會衆の眼に寫つた時から初まるとする、而してその態度、位置、品位等は、未だ話の意味は話さぬが、その話の準備として無言の作用をするものであると考へて、成る可く不快の感を與へぬ樣に務めなければならない。例へば演壇に上らうとする時でも、同じくば會衆に背を向けぬやうに話す位置を占めるにも、右の手を振つても、左に步んでも少しも障りになるものもなく、餘り前に乘り出しもせず、品位ある地位を占め、その地位を占めたら丁度角力取りが土俵に上つたと同じ覺悟を以て如何なる大盤石が來ても動かぬといふ見識を持たなくてはならぬ。

よく人は話す時手はどう動かし、足はどうするといふが、假りに首より上を離て匿したとしたら、いかに手が微妙に動いても、足が奇麗に動いても、何等の意味がない。かうして見ると話しするには顏が大切である。顏の中でももしその眼が動かなかつたならば、話の半ば以上は死んで終う。かく考へて來ると態度の根本は眼にある。殊に子供に話すお伽譚は眼を使ふより外ない。會衆を統括する時は、或は聲て、或は手を使つてもするけれども、その全體を引締めるにはどうしても眼が大事である。眼が動けば手や態度は多少どうあつても構はない「君子は容貌愚なるが如し」といふ事を理想として來たお互ひ日本人は、大層この眼に就て損な遺傳を持つて居るが、今後は生きて居る眼であるから。生きて居る樣に磨いて、之を充分用なければならない。部分部分に亘つた事は尙委しく次回にお話しする事に致しませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

耶蘇の苦衷

柏井園

一の家でも國でも亦如何なる團體でも多くの人の重荷を負ふて人知れず苦しむ人があるによつて立つて行くことが出來るのである。パウロは自ら逢ひしさま／＼の艱難辛苦を數へ來つて『此處に言はざる外の事あつて日々我に迫る即ち諸の教會の憂慮なり誰か弱りて我れ弱らざらんや誰か礙きて我が心熱せざらんや』（コリント後十一〇二十八、二十九）と云つて居る。まして耶蘇基督に於ては其の救の業を成さるゝためにどれだけ苦心をなし肝膽を碎かれたであらうか、察するに餘りあることである。ただ耶蘇は輕々しく己の苦痛を訴へらるゝことをせられなかつた。斷食するときにも僞善者の如く憂容をしてはならぬ首に膏を塗り面を洗ふて斷食せよと云はれた一事を見ても其の御たしなみは解るのである我等は耶蘇が容易に漏らし給はざりし苦衷の一班を察し奉りて、己の我儘な心に勝ち又彼に對する感恩の念を一層深くしたいものである。

先づ家族に對する關係から考へて見たい。ナザレに於て暮らされた三十年間の生活にもさま／＼の苦勞はあつたであらう。普通に信ぜらるゝ如く父のヨセフ早く死して年少き耶蘇が母と數人の兄弟を世話する責任を負はれたこととすれば、隨分生活の戰を經られたに違ひない。しかしこの間の消息は聖書のうちに明に傳へられてないが、福音書に記されて居る事實に就きて考へて見ると、耶蘇は身を献げて道を傳ふる業に從事せられて後、母や親戚骨肉が彼の心を解し得ぬ爲に一方ならず心を痛められた痕がある。食する隙もなきほど活潑に傳道して居られた時にも親屬（英譯には「朋友」と譯してあるが）は彼が狂氣したと云つて連れて來たことがある（馬可三〇二十一）。又或る家で說教せられて居る際も母と兄弟と尋ねて來て戶外に立つて耶蘇を呼ばしたこともある（同三〇三十一）。ヨハネ傳七〇五を見れば大分後になつても耶蘇の兄弟は未だ耶蘇を信じて居らぬ。同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じ家に育つて一緒に遊んだ耶蘇を救主であるメシヤと信じ難いのは無理でない。パウロがコリント前書十五〇七に書いた所に據れば耶蘇は甦られて後ヤコブに現れたと見へる。又使徒行傳を見ればヤコブは耶蘇の復活後信ずる弟子の仲間にはいつて居る。復活した耶蘇に接してヤコブも漸く信ずるものとなつたものと思はれる。ヤコブが信ずることになれば彼の他の兄弟も亦多分信ずるものとなつたのであらう。耶蘇が此の世にある間に如何ばかり身近いものを信仰に導くに苦心したかと云ふことを覗ふことが出來る。

次に言ふべきは彼より先き世に現れたバプテスマのヨハネに對する苦心である。ヨハネは光であるが燈の光のやうなもので太陽の光ではない。とても耶蘇とは比べ物にはならぬ。耶蘇の弟子のうちの最と小さき者でも或る意味に於てはヨハネよりも大なるものである。それにしても耶蘇はヨハネを推しのけて彼の光を奪ふと云ふやうな所は少しもない。耶蘇は人に洗禮を施されなかつたが、獨りバプテスマのヨハネがユダヤに於て洗禮を授けつゝあつて耶蘇自身もエルサレム及びユダヤの地にて傳道しつゝある時代のみは彼も亦洗禮を行ふた。御自身には洗禮を施されなかつたが弟子をして之をせしめた（約三〇二十三、〇四〇二）。ヨハネが極力推奬したる耶蘇にして洗禮の如きはせずともよろしいと云はれたならば、人はヨハネのなしつゝある處に對する信仰を減ぜざらんと欲するも能はざる處である。主義を曲げて人に調子をあはす必要はないが、さうでない範圍内に於ては出來得る限り人の面目の立つやうにするのが基督の弟子のなすべき事であらう。其の後ヨハネがマケラス城中に於て失望し疑惑して使を耶蘇の許に遣した時にも耶蘇は勉めてヨハネの勝れた處を發揚しやうとせられた『彼は預言者よりも勝れたるものなり』（太十一〇九）と云ひ、又『婦の生みたるものの中に未だバプテスマのヨハネよりも大なるものは起らざりき』（太十一〇十）と云はれた。ここに實に床しい心が現れて居る。

弟子を教育する間の苦心に至つては亦一層大なるものがあつた。大なる教育家は一人一人を教へ育つる爲に骨折を吝まざる人である。中江藤樹の如き人も、才の鈍い門人を教ふる爲に多くの時と勞力を用ひたと云ふ事である。耶蘇は弟子が皆弱く誘惑のな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かにあるを知れるものから其の信仰の中途に挫折せず順當に生長を遂げしめんが爲に、心を用ひ之が爲に祈られたことは、ペテロに向ひて『シモンよシモンよサタン汝等を索めて麥の如く簸んとす然れど汝の信仰絕えざるやう汝の爲に祈れり』と云はれた一言によつてもわかる。（路二十二の三十一、三十二）我等はどれだけ人の救はれん爲に心を苦しめ之が爲に祈りつゝあるか。耶蘇の御前に於て面目もなき次第である。耶蘇は又弟子等の間の爭や不和の爲に心を苦められたことは一通りでない。耶蘇は總ての人を愛し親切にせられたけれども決して無差別の愛でない。十二弟子のうちでもヘルモン山の上へ或はゲッセマネの園に於て心をこめて祈をせられうと云ふ場合に伴はれたのはペテロ、ヨハネ、ヤコブと云ふ二三人の弟子に止つた。これは正直なされ方であるが、人情の弱點は又羨むとか嫉むとか云ふことになり易いもので、弟子のうちで誰が一番大なるものであるかと云ふやうな爭をも生じた。又一方には耶蘇の精神を了解せずヤコブのヨハネの母は其の二人の子の爲に特別の地位を與へられんことを耶蘇に要求する如き事もあつた。この間に立つて耶蘇は彼等に柔和謙遜犧牲の精神を教へこむ爲に隨分心を勞せられたに違ひない。終に自ら弟子の足を洗ふまでに至つた。彼か世を去つて後弟子の間に爭ふと云ふことなく協力一致して神の國の爲に戰つたのは其の師の苦まれた賜である。

宗教上の眞理を說かるゝにも聽く人の程度に應じて出來るだけ解らすやうにしたいと云ふ御考から工夫を凝らされた。視ても見ず聽きても悟らざる民に見せしめ悟らしめんとしてさま〴〵の譬喩を設けられたのである（太一三〇十）。

『我れ受くべきのバプテスマあり其の成し遂げらるゝ迄は我が痛みいかばかりぞや』（路十二〇五十）。これは耶蘇の苦衷のうちの苦衷である。早晩之に出會はなければならぬものなれば、早く濟んでしまへば寧ろ安心である。然れども神より定められたる時の來るまでは忍んで之を待たねばならぬ。これは容易ならぬ十字架である。馬可十〇三十二に『さて彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行きければ汝等おどろき且つ畏れて從へり』とあるは、彼が人知れぬ思ひを胸に湛へ猛然として獨り步みし有樣さながら目に見る如くである。この苦衷は最後に迸つ

てゲッセマネの祈りとなつた。

＊　＊　＊

以上は耶蘇の苦心慘憺せられたる一班である。顧みて此等の生活を點檢すれば輕しく悲しみ輕しく失望し輕しく不平を云ひ、耶蘇の苦衷を酌み知ることができない。之から一身一家の失敗、破綻の多くが生して來る。今一層眞面目になつて耶蘇の苦衷に與るものとなりたい。それにしても我等は又注意したい事は、

耶蘇は斯く苦心せられたけれども思ひ煩はれなかつた。思ひ煩ふと云ふことを戒められた。思ひ煩ふは自己中心であるが、耶蘇の苦心は或る目的を果たす爲に苦慮し工夫せられたことが多い。

耶蘇は斯く苦心しながらも單純で平和で又喜に滿ちて居たまふた。神にまかする信仰が根本になつて居たからである。

人は人知れぬ苦をもつ時に主我的になり易い。然るに耶蘇は同情に滿ちて居られた。自から苦むことによつて人を幸にし、自から創を負ふことによりて人の痛みを醫された。

耶蘇は適當なる時に於ては己の苦衷の幾分を人に訴へて之を頒つことを求められた。ゲッセマネの祈の際にすら親しき弟子を伴はれた。人生に於て苦みつゝ世を渡つて行く人は誠に心を打ち明くべき友を要する。ことに友の中の友なる神に語り神から力と同情を賜はることを要する。

此等のことを耶蘇から學びもいたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

イエシユダス

スモール女史作
小此木松子譯

（中）

モルワラの町から、遠からぬ處にバラーナデイと云つて、十二の河流の源と呼はれる村がありました。餘程前から耶蘇教の宣教師達は、此村に入り込む事を誓願として旅行期の廻つて來る度毎に心掛けては居ましたが、毎年或は洪水の爲に、或は事業の都合で、今迄は遂に此隱れた、面白さうな村落に足踏み入れる機會がありませむでした。

ところが、一八九五年の冬、とう〳〵多年の宿望が叶つて數人の教師は此地に達し得たのです。丁度一行は日暮に此處に着きましたので、其邊の小高い處に天幕を張り、野宿の仕度も出來上つて、四方を見渡しますと、山々に包まれた此バラーナデイ村の小屋〳〵からは、今しも夕餉の煙が立上つて其處此處には、半ば裸體の僧侶達が、脂ぎつた胸や腕を露はして行來してゐるのさへも遙に望まれました。

其處に其日の疲れを休めて、翌早朝に村を見る事とし、古寺の他には家とても無い附近の靜かさを幸ひ、一行は急いで寢臺へと入りました。が、眠氣づいたと思ふ間も無く、聞き馴れぬ人聲がします。周圍のひつそりとして居るのに一層冴えて聞えるのは何とも云へぬ、柔かな、低い、澄むだ男の聲で、人の眠りを覺すとよりは、却つて眠りを深からせる樣な弱々しさですが、尙其響には、はつきりと、遠く傳はる力がありました。其語調から見ると彼上流のバラモン族に相違なく其言ふ所は讚美と懺悔、神を慕ふて止み難い熱情の流露です。やがて程なく聲は途切れ、烈しい苦惱と哀慕とに、咽び泣く音ばかりでした。

夢破られた宣教師は、一心聲を辿つて居ると、やがて嗚咽の聲も絕えた、さては夢かと思ふ間も無く又も話は手に取る樣に聞えました。

「あゝ、さて〳〵二日の斷食か何とならう。二日の徹宵斷食で知り得る樣な神ならば、此樣な苦心は無い。一生をかけてと思ひ立つたが、自分の願ひ。彼の過ぎし昔、幼き頃に聞き覺えた奇しき神の子といふは、足、荊を踏むで感ぜず、口食を受けて味はず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其耳、其眼、天上の高きに憧がるゝか故に、世の幻影に迷ひ玉はずといふ。明日は此地をも去る可き我れ放浪の身、今宵を名殘りに、彼等の事ども說き參らせむ。何時の世、何處の事とも知らず萬物に宿り玉ふ婆羅門の神は、人界の惡と悲哀を歎き、假りに人間の姿を以て此世に下り玉ふた。如何なる御名を取らせ玉ふたとさへ今は覺えず、唯、人の苦難を我苦難とし、自ら人の慰藉となり玉ふたが其望み玉ふ所として成らざるは無い。唯、自ら逆賊の手を免れうとはせられず、遂に死罪に問はれて、世を去られぬ。

貴き婆羅門の神ともあるものが甘んじて御身を殺し玉ふた事は、お互不審にも思ふ。又、此他にも不思議は多い。が今は唯思ひ出づる昔語りを繰り返すまで。明日は又、嘗て此話の語られたモルワラの町へと志せば、又新たなる智識も得やう。其神の社にも詣でたく。扨、死し玉ふた救世主の友——といふも僅かに身柄も卑しい人々は、遺骸を乞ふて地に埋めたが、其後、死せる神の子は再び新らしき生に入られたと聞いたばかり、お顏ばせなどの如何あつたとも知らず……。」

途切れ〳〵て此處まで語つた人の聲は悲しげにも疲れて居た。やがて一人は別れを告げて山を下つたけはひなので天幕の人は急ぎ殘れる一人に近附かうとしますと、恰もよし、次のテントを靜に開けて、聲する方へと向ふ人があります。すかして見ると、同行の一人、老練な士人の牧師でした。丁度此種の熱烈な基督の愛慕者、求道者を導くの人としては、最適當なものと思つたので、悅び感謝し寢臺に歸つて、續く話に耳傾けました。

さて此士人の老牧師が巧みな順序で先づ第一に說いたのは、自分自ら其神の御子に廻り遇ふたといふ事です。自分は、唯つまらぬ無學なマラタ族でも神は尙、之を見捨てず、今も又、其御心に依て此處に遣はされたといふ事を話しました。唯驚きに驚いた、婆羅門の聖者は、容易にその話を信じ樣ともしませむ。さらば疑ひを晴らす可き證據もある。御身の憧れ慕ふ其御子の名はイエシユとはいはれぬかと問ふた老師の言は少なからず相手を感動をさせた樣子です。幼い折に聞いた慕はしい名、長い間忘れ果てゝは、如何にとも思出なかつた其名の響きが、どの樣に強烈な感想を起したのでせうか。唯、悲喜交々

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

到つて、暫くは涙にくるゝ樣子でした。やがて聞えた此婆羅門の聖者の聲は、唯嬉しさにそゝり立つ樣な、心急しい調子です。而し、神の子若し、今も此世に在すとならば、一時も早く御容姿の拜したく、富も捨てた、斷食も續けた、有らゆる苦行も怠らぬ。是等の功德に依て、唯、御側に近附けるものならばと、一人心をあせります。敎師は之を徐ろに諭して、イエシユは富をも望まず、難行をも嘗め玉はぬ、唯健康と平和と歡樂とを待ち、「來れ我汝を休ませむ。と說かれた事を語りました。婆羅門僧は、丁度食に飢えたる人の樣に、一刻を爭うて、神の子を見む事を迫りますのを「先づ一度彼と語つて」と制して置いて牧師は低く祈を捧げましたそこて、イエシユは在さざる所なく、祈は是を口にせざるも聞き入れ玉ふ事、唯、我等人間の眼の曇れる、神を見るの明なきを歎き、假に其子を人界に下し玉ふた事、自分等は神より見れば、愚かしき子供に過ぎぬ、其幼兒の心を神は喜び愛し玉ふ事、などを語つて、やかて、二人は古寺の中へと歩を移しました。

翌朝目覺めた宣敎師の一行は、少からず、驚きかつ歎きました、といふのは昨夜の婆羅門僧は早く去つて行衞を失ひ、前夜語つた老僧にさへ其行先を明しては無かつたのです。村人に就いて尋ねた彼れ求道者婆羅門人の閲歷といふのは斯うでした。

幾週か前の或日の事、何處からとも無く巡禮の婆羅門僧か一人此地へとまぎれ入りました。假初の病の爲に暫く此處に滯留したのでしたが、村人との交りを避け、一人この山上の古寺に籠りました。或者は彼を狂者と呼び、又或人は、常ならぬ難行の僧と稱へました。時に病を癒し、貧者を施し、有りふれた婆羅門族の傲慢さとは大に其趣を異にして、子供等など迄、柔しい巡禮のあとを追ふて搜し求める程でした。それに又折々は奇しき救ひの話を以て村の若者を感動せしめ、夜陰など、ながく彼等と語ることも多かつたさうです。兎に角に、此平和な村から、あの樣な奇人の立去つたのは、喜ばしい事といふのが村一帶の考でした。

さて宣敎師の一行は、如何したものかと、集つて向後を議しましたもの丶、其巡禮の今の所在を知らずては、何の助けも出來ませむ。若しや、舊知のマルワラの町へてもと、尋ねましたが、此處にも、消

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

息はありませんてした。

此心配の中にも、例の老牧師だけは、あまり心を苦しめず、彼れ程の渇仰を持つものが永久眞理に遠かる恐れも無し、かつは、夜前、暗のまぎれの誤りて、長く手訓れたヨハネ傳を彼に與へた。中には自分の宿處も氏名もある事故、それが手引で何時かは再會の期もあらうと、一人心を慰めて居ました。

しかし、忠實な神の僕であつた此老土人は間も無く永の眠りに就いて、淋しいモルワラの地に葬られ彼の旅僧の消息は其後絶えて聞く由もありませんでした。

友のひとりへ

森田松榮子

こころだにまことのみちにかなひなば
　いのらずとてもかみやまもらむ

二月二十五日は、天神様のお日とて、儒家なる私の外祖母の家にては年毎にこの日を祭るを家例と致居候。菅公の歌、或は儒家の精神を遺憾なく詠出せしものとして、たふとまれ、或は誠忠無二の菅公の赤心を吐露されしものとして仰がれ、修身書にもこの歌を見ざる殆なく、千古の眞理として道徳をいふものに常にひかれ、また宗教家にもよく口にせらるる所に候。まことにこの歌こそ菅公の信念を告白せるものにて、この歌によりてだけにても、千古に輝く人格の光を仰ぎ得て、眞に敬慕の情に堪へず候。いま君のこの歌をひきて我等の祈りにいひ及ぼされ候こといつも乍らまなびの友、道の友の情うれしくかたじげなう存じあげ候。知り玉ふとほり私どもは議論をいたすにてはなく、ただ信ずるところをありのままに申上候こと、今更めきて申すにも及ばぬことながら、さて筆とりむかへ候ては、さすがにまのあたりお目にかかりてきこえ上げたきこころ切になり申候。私共の神は、敬すべくして近づくべからざる神、畏るべくして親しむべからざる神にはおはさずして、私どもを御みづからに像りてつくり玉へる神、爾等天の父の完全がごとく、爾等もまつたくすべしと、親しみたまふ神、私どもの爲には、惟一の御子をさへ世につかはし玉へる程に私どもを愛し玉ふ神、私どもの罪をあがなひ玉ふ爲、私どもを永遠のほろびより救ひ玉ふためには、聖き罪なきおん身

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ながら、十字架のくるしみをさへいとひ玉はざりしほど私どもを愛し玉ふ神なることを感謝いたし候。私どもおのおの罪の自覺に至り、一旦あがなひのこころをしり、救の道をさとりなば、高く遠くしてただ仰ぎて敬すべかりし天は、あはれいかにその意義を我等にかへ候ぞよ。幾重の山路ふみわけて、からくも我れみづからわが力もて見出でたりとおもふ活路の、そはまたくさにあらで、主のはじめより私どもの爲にそなへ玉ひし救の道、私どもの至るを、み手をひろげて待ち居玉ひし、たた一すぢの大道なるをはじめて知るとき、私どもの感謝の念はいかにみなぎり、いかにあふれ候ぞや。われ等いかに感謝のさけびをあぐるとも、いかに主の聖名をほめまつるとも、なほわれらが主を愛しまつるおもひのいとすこしだにあらはし得ざるを、いかに憾み候はむ。されど主の御愛にたぐへては、私共の愛とよぶものはしかいふあたへもなき、いとちさき小さきもの、小さしといふ比較をあらはす言葉にもあたへせぬほどのものに候。眞理をもとめ、眞理をこよなきものにたふとみし心は、いま主の愛にくだかれ、主の愛にいかされ、ただ主をしたひ、主を愛しまつる心にみたされ候。吸ふ息いづる息、これ大神の愛のみ力によりて生くるとおもひ、日ごとふむところ、これ大神のしめし玉へる坦途とおもひ候とき、ああたれか一日も一時も祈らずして、わが世をすごし得候ぞやたふとむべき眞理てふ信念の、一旦愛すべき眞理てふ信念に至りたるとき、ああこの時、このとき、たれかひざまづきて祈らぬものの候はむ、祈らであられ候はむ。菅公の歌そのものに就ては私も同感にて候。されど眞理を悟れりといふ人々の中にたまたまこの歌をひきて、祈禱のことをいふ人々、いまここに君ものたまへるごとき、私のしれる限りにてもあまり少しは申されざるを見、眞理はただたふときものなるを知りて、さらにその愛なること、語をかへて申さば、神の義なるを知り玉ふも、神は愛なるをば、或は未だ義をみ玉ふほどにいとあきらかに見玉はざるにもやとをろかなる心にまどひ申候。

へだてなき友、心おきなく語りあふ君なればと、みづからあまへてかきつらね申候。たかぶりのこころあらばゆるさせたまへ。

くめどくめどつきぬいのちの源に
いまあえぎよる何のよろこび

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

○日本基督教女子青年會

△兼ねて募集中なりし日本總幹事を聘するに就ての費用は、今日迄の應募高左の如し

金壹百拾圓也	東京基督教女子青年會
金壹百圓也	ミセス、フイシヤー
同	廣岡淺子氏
金六拾圓也	某氏
金五拾圓也	某氏
金貳拾五圓也	津田梅子氏
同	ミス、ハーツホン
同	ミスター、ミラー
同	某氏
金貳拾圓也	ミス、デントン外有志
同	ミス、プランロー
同	某氏
金拾五圓也	某氏
同	某氏
金拾圓也(毎年)	宮城女學校
同(毎年)	同志社女學校
同(毎年)	女子學院
同	井深花子氏
同	三谷民子氏
金五圓也(毎年)	共立女學校
同	岡見惠子氏
金四圓也	チツントン氏
金參圓也(毎年)	フエリス女學校
金貳圓	米子青年會
同	廣島女學校
金壹圓也(毎年)	青山手藝女學校

〆金六百六拾八圓也

△四月十五日午後四時より、基督教女子青年會事務所に於て、日本總幹事選定委員會を開く、決定要項左の如し。

一、日本基督教女子青年會に日本人の總幹事を聘する事

一、日本基督教女子青年會日本人總幹事たるべき事を、河井道子氏に依頼する事

一、右總幹事就職期限を明治四十五年九月より滿一箇年とする事

△五月十一日午後二時半本部に於て委員例會を開くる者三谷民子、津田梅子、小此木松子、鈴木歌子長谷川きた子、二宮貞子、河井道子の委員諸氏及マグドナルド、レーガン、小橋三四子の諸幹事なり。

津田梅子氏は今回日本總幹事として、河井道子氏を聘し、同氏の承諾を經たる旨の報告あり、一同氏の好意を多とし今後も委員等は總幹事に責任を一任するやうの事なく、各々之れを分擔して、その發展を計るべきことを約す。

マグドナルド幹事は、別項記載の通り、今年の夏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

期修養會は、横須賀大津村勝男舘に於て七月二十三より同三十一日の一週間に亘り開かるべき旨の報告あり次で昨年十月の委員會に於て在京支那婦人の爲めに本會の働らきを及ぼさんとの協議ありしも、同國革命に當り、多くの者歸國して、之れに着手する能はざりしも、今春以來ボツ〱上京する有樣なれば、この爲め特に本會に於て聘したる陳ゼシイ女史はその働らきを始め、既に四十名の名を聞き、中二十名は親しく訪問して、之れに本會の性質を紹介するを得たりとの報告あり。

小此木松子氏明治の女子に就て報告す。本誌は昨年以來有志者及び本會支部の厚き同情により、非常なる發展をなし。殆ど三倍の購讀者增加を見るに至れりと。

小橋三四子は各支部に就ての報告をなす。別項記載の通り、特に支部より今回日本總幹事を聘するに就て、寄附金を寄せられたる事、及び宮城女學校より特に一年三回宛本部の働らきの中に寄附せられたる事を報ず。四時過ぐる頃閉會。

△前號明治の女子は廣岡浅子氏特に五百部購買せれれ、傳道の爲め配布すべきやう。本會に寄附せられたり。本會はその好意を深く謝し、學校、諸所の寄宿舍、看護婦會等、凡そ二十個所に配布せり、

○東京基督教女子青年會

四月二十七日(土曜日)午後二時より、小石川區水道町二十八番地女子青年會寄宿舍に於て、本會第六回總會を開く。當日は委員改選を行ふ筈なりしも、十月會延期し本會創立の際副會長たりし前米國公使夫人ミセス、バックの歸國に際し、送別の意を表する爲めに茶話會として、來會者の懇談を希望せり。

會は今西絲子夫人の司會の下に、三谷民子女史開會の祈禱を捧げ、女子學院生徒の讃美歌合唱に次ぎ川島芳子女史の過去一年間に於ける本會事業の報告あり。次で今回新らたに日本基督教女子青年會に於て、支那婦人の爲めに働らくべき人として聘したる陳女史の感話あり、日本總幹事マグドナルド女史は別項記載の談話を日本語を以てせられ、再び女子學院生徒の讃美歌を以て閉會の上、食堂を開き、茶菓の饗應あり、一同懇談の上隨意散會せり。

○横濱共立女學校女子青年會

明治四十五年三月二十五日(月)役員委員の改選執行投票者二十八名。結果左の如し

役員としては會長大地重、書記松本松本、會計秋野さき、委員としては傳道部、部長田中しほ、書記山口あさ、會計岩澤はつ、矯風部部長植松きみ、書記稻沼たへ、會計長谷川豊、祈禱部部長河本つた、書記佐野ふみ、會計小林あい、文學部部長伊藤たま書記宮瀨きく、會計打木とめ

○大阪ウ井ルミナ女學校

△學年の變更と共に會長、會計、通信書記等の役員改選す。四月十一日第一回事務會を開き各級委員を選擧す。今後毎月一回地方の教師或は校師に依賴し講話或は訓話を願ふ事とし、なほ又贊成員の便宜をはかり、毎月一回各級にて質問會を開く。

△四月十六日火曜日當校講堂に於て青年會を開く。モルガン校長の懇切なる訓話あり。青年會の例會は毎火曜日と定む。

△四月二十三日教室に於て青年會を開くキリストのあはれみと題し聖書馬可一〇四十四十五朗讀す。

△四月三十一日質問會贊成員を開く、同時に正會員は講堂に於て祈禱會を開く。聖路十一〇一十三朗讀

△五月七日危險に際してキリストの保護聖馬可四〇三十五四十一）てふ題の下に、各教室に於て青年會を開く。

△五月十四日講堂に於て大阪教會副牧師森山氏の講話あり「人としての婦人」といふ題の下に種々適切なる例を引き懇切に說かれたり。一同大に感動す。新たに四十五名の姉妹を加へらる。

○小石川傳道女學校

△三月一日（第一金曜日）前役員滿期に付役員改選を行ひたる結果、當選者左の如くに候、

會長　久保田米子　　會計　佐藤みよ子

書記　中村睦子

當日出席者、十四名、會員十二名、客員二名、

△三月八日（第二金曜日）今日は音樂會の筈なりしも、都合により開會致さず、前週選擧の役員已むを得ざる事故により辭任せられ候に付、更に改選致し候處左の通り當選せられ候、

會長　田畑えつ子　　會計　皆川きん子

書記　中村睦子

終りに默禱を以て閉會致し候。當日の出席者、三十八名、會員十六名、客員二十二名、

△三月十四日（第三金曜日）田畑えつ子姉司會の許に講話會を開く。出席者、十八名、會員十六名、客員二名

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

院長診察（月、水、木、金、午前
　　　　　入院診斷後應需）
松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局　八八八（病院用）
　　　　　八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長　醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
従停車場半里

南湖院

電チガサキ二番
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Headquarters, 12 Sanchome Tamachi, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Chairman Women's Sub-committee
World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Meiji no Joshi"

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. K. Araki, Osaka
Miss Uta Suzuki	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Tei Ninomiya	Miss N.B. Gaines, Hiroshima
Mrs. G. M. Fisher	Miss Wynne-Willson, Nagoya
Miss Sarah Ellis	Miss M. Brownlow, Hakodate

Secretaries
Miss A. C. Macdonald, National General
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker
Miss Miyo Kobashi, Assistant Editor "Meiji no Joshi"

部數	一部	十二部
定價（郵稅共）	金七錢	金五拾錢
海外	金九錢	金壹圓
廣告	一頁　金六圓	半頁　金三圓五拾錢
	半段　金貳圓	一行　金貳拾錢

明治四十五年五月廿八日印刷
明治四十五年六月一日發行

發行兼編輯人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　エー、シー、マクドナルド
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

■■■新刊の書■■■

警醒社編輯局編

現代世界思潮

四六判美本
定價六十錢
郵稅六錢

浮田、新渡戸兩博士、成瀬校長編輯のもとに發刊したる英文雜誌、ライフに掲げたる諸名家の名論卓說を、今回、邦語に譯し、輯めて一冊子としたのが本書てす澁澤男、森村翁、新渡戸博士、浮田博士、成瀬女子大學校長等をはじめ、諸名士の言論は本書の内容を飾るのです、若し原文と對照して御繙讀になれば語學の練習にもなつて、有益かと存じます。

宮川經輝先生著

靈的實驗

（コロサイ書訓解）

定價　上製七十錢　並製五十錢　郵稅八錢

宮川先生のコロサイ書講義を讀まんと思ふ方宮川先生の說敎を聽かんと欲する人は是非本書を御讀みなさい。

德富蘆花氏作

黑潮　四拾錢　郵稅六錢

寄生木　壹圓半　郵稅拾貳錢

順禮紀行　五拾錢　六錢

初夏の輕い讀みものとして皆さまに御紹介します

發行所は　東京京橋銀座（振替東京五五三）　警醒社書店

明治四十五年六月一日納本發行(毎月一回一日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Meiji no Joshi

Volume. IX *Jun. 1912.* *No. 6*

The British Queen-Empress at the Y.W.C.A. in Calcutta

Our Summer Conference — Miss Matsu Okonogi.

Announcement and Programme

The Field of the Y.W.C.A. in Japan — Miss A.C. Macdonald

The Power of Rebound — Mr. T. Shirai

The Art of Imparting Knowledge to Children — Mr. T. Kurushima.

The Sufferings of Christ — Rev. E. Kashiwai.

YESHUDAS, An Indian Story (Continued) II — Miss A.M. Small
Translated by Miss Matsu Okonogi

To One of My Friends — Miss Matsuye Morita.

Association Notes

The National Secretaryship....Contributions....National Committee Meeting....Tokyo Annual Meeting....Kyoritsu Jogakko....Wilmina Jogakko

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA